

南会津 城郭朝日雪山登山 山行報告

【メンバー】 CL 柘植秀樹 SL 鈴木憲二 安岡敏子 澤田路子 (記録)

【日程】 前夜発 4月15日(土)～17日(月)

【行動】

4月15日(金) 晴時々雨

7:00 鳥井戸橋駐車 → 11:30 山毛櫓沢山 → 12:30 幕営地 (1466m)

今年は昨年と比べると雪が多らしく尾根の取り付きから雪がついている。鳥井戸橋付近の空きスペースに車を駐車して、はじめからアイゼンを着けてスタート。雪も締まりトレースもある。しっかりした鉄板の橋を渡り、対岸からいきなり植林帯の急斜面を登って尾根筋に出ると、いつの間にか周辺は気持ちのいいブナ林となり心が和む。

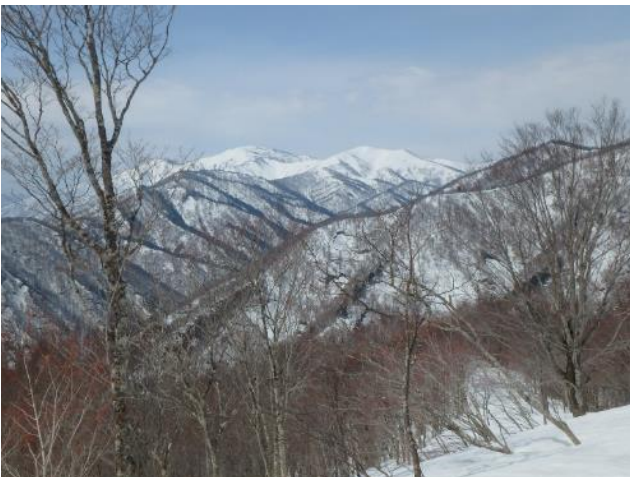


鳥井戸橋の出発地点



ブナの樹間を登る

Tシャツでも汗ばむ急登。まだ体が慣れてない重荷に、ゆっくりペースで登っていく。結構高度を稼いだと思ったら木立の切れ間からすぐ下に集落が見えて、「あらら、まだたいして登っていないんだ!」と口をついで出る。見上げればどこまでも続く広いブナ林の雪の斜面に点在するブナの根元の“根開き”が、雪解けを待つ森の風情そのもの。時折遠くから軽快なドラミングの響きも聞こえてきて、それも心地いい。さらに一登りして1130mあたりの広い平坦地で小休止。木立の間から春霞の中に南会津の山波が連なり左手には真っ白な三岩岳、窓明山、大戸沢岳が望める。いったん下ると正面から西側に崖のようになった雪庇の層が美しく横たわり、その先端が目指すブナ沢山のようなのだ。



三岩岳、窓明山、大戸沢岳方面の展望



稜線もまぢか

今日は山天情報によると午後おそくとも3時頃には一時雨とのこと。さらに夜も雨予報なので、とにかく行動中は降らないようにと祈るのみ。この時期雨に直撃されてずぶぬれになると山中二泊はなかなか辛いものがある。西風がでてきて思ったより雨が早いと思わせるような怪しい雲が空を覆い始めるが、せっかくなのでブナ沢山の分岐で荷を置いてピークまでピストンする。ふたたび荷を背負って雨が降る前にと先を急ぐ。見渡す限りどこまでもブナ、ブナ、ブナ。激藪覚悟か雪の時期しか歩けない手つかずの尾根だけあって見事なブナの古木や巨木が多い。途中快適そうなところにテントを発見。宿主は留守のようだが、置いてある旧タイプの重いスコップをみると同年代の山屋さんとみた。

我々は幕営予定の小手沢山に向かうがその前に雨がポツンと降り出し、ザーと来る前にと12:30という早い時間だが1466m付近で行動を終了する。このあたりはどこでも幕営適地だが、吹き上げてくる風は強い。テント設営を急ぎ、後はひたすら水作り。たまたま座った位置でおのずと役割分担がきまり、手を休める暇なく真剣にリレー作業に邁進する。一步引いてみると結構な年の大人4人が何やってんだか・・・と笑えてくる。

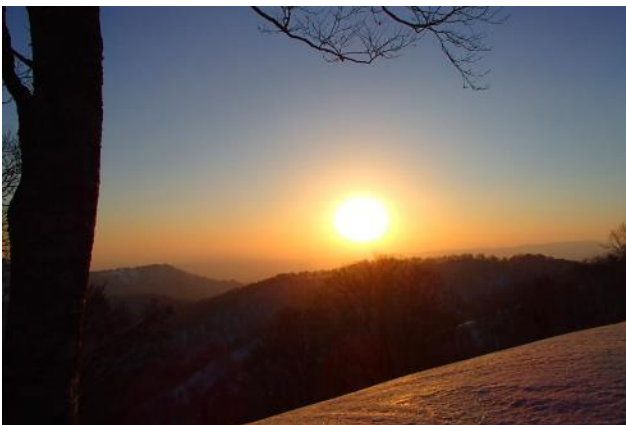
全ての容器を満タンにした後お待ちかねのお茶&お酒タイム。いつしかテントの入口から見えるブナの木々とその先の山波の色は夕方に向かって刻々と黄金色に変化し、同じ姿勢で腰がきついことを除けば贅沢きわまりない時間だ。二缶もサワーを担ぎあげたタフな安岡さんはリーダーの羨ましそうな顔を尻目にぐびぐび。とはいえはその顔に負けてお裾分けする優しい安岡さん。

夕方城郭朝日から下山して来たパーティーがテントの外から声をかけてくれる。来る途中見かけたテントの山屋さんで、この先の藪や雪の情報も教えてもらう。やっぱり同世代。

予定より手前でテントを張った分、明日は早起きしての長丁場になるので、夕食後まだ明るい6時には寝袋に入る。腰痛持ちとしては狭いテント生活の中で腰が伸びるこの瞬間が何ともありがたい。終始風は強く、途中雨も降ったが、夜中のトイレの時はヘッドンいらすの星空だった。

16日(日)晴曇り

5:30 幕営地発 → 7:00 恵羅窪山 → 9:10 城郭朝日山 → 13:30 幕営地



神々しい日の出



2泊したテントサイト

本日は荷が軽いので、足も軽やか。テントの外に出ると朝の冷気が心地よく、きりっと爽快。朝焼けの美しさがさらに気分を後押しして心が浮き立つスタートだ。かろうじて晴れてはいるが相変わらず風はある。昇ってきた朝日が丸山、会津朝日の山々を輝かせて何とも神々しい。

小手沢山を過ぎ緩くアップダウンを繰り返しながらほとんど高度を変えずに恵羅窪山に到着。東側にできている雪庇の突端からぽたぽたと滴が落ち、所々きれつもあり、土肌も出ていて、いかにも雪解けま近だ。やがて正面に城郭朝日山がその雄姿を見せる。空身だけあっていいペースだ。城郭朝日手前の

ピークあたりからは雪底が落ちかけ藪も現れ、雪をひろってトラバース気味に進む。

途中城郭朝日山から下山してきた単独の男性とすれちがう。一泊でテントを撤収してそのまま下山するとのこと。時間によってはそれもありかも。



小手沢山付近の平坦な山稜



丸山岳～会津朝日岳の山並み



恵羅窪山を目指して進む



恵羅窪山の山頂



目指す城郭朝日山が見えてきた



眼前に迫る城郭朝日山

着きそうで着かない最後の登りを終えるとドカンと大パノラマが待ち受ける山頂到着
どこまでも連なるたおやかな尾根が織りなす景観は、いかにも奥深い会津の山域らしい。しばし眺望を満喫して小腹を満たし下山開始。団子になるストレスからアイゼンもはずすが、雪も緩んで問題無くむしる快適だ。



最後の長い登り



山頂1 (背後は会津駒ヶ岳方面)



山頂2 (背後は只見方面)



守門～浅草岳、御神楽岳方面



たぶん二度と来ない山頂でマッタリ



正面は会津朝日岳

空身のうへ往路をたどるだけなので楽勝だと思いきや、後半になるとこなしてもこなしてもしつこく現れる小ピークに、ブナ林に癒される気分も半減してややうんざりした頃、やっと懐かしいテントが見えてほっとする。話によれば11のピーク数があるとか。いやいや地図を睨んで数えてみたらもっとあった。

まだ日も高く、昨日慌てて整地もせずに設置した場所がかなり傾斜していたので改めてしっかり整地した場所にテントを移動させる、しかし風の通り道に変わりはないので、春の陽射しの中、外でまったりしたいところだが、昨日同様すぐにテントに潜り込んで、またせっせと水作りに励み、残ったお酒を大事に飲みながらのささやかな宴会に盛り上がる。山天予報では明日は雨とのこと。3時間程の下山と

はいえ出発時に雨はいただけないので、降り出す前に下りようと4時起床を目指す。なので本日も6時には寝袋に入ると同じ流れで2泊目も過ぎていく。高齢者中心パーティーだけあってそうになったら寝るのも早い。夜の風はなかなかで、すぐに爆睡できる男性陣はさておき繊細な女性2人は夜じゅう吹き荒れ、寝ている頭がもち上げられそうな強風のおかげで、眠れない夜となる。

17日(月)曇り

5:40幕営地発 → 8:00鳥井戸橋駐車場

ぱきっと4時に起床し、雨が降り出す前にと、さくっと朝食を食べ、テント撤収とパッキングを急いで済ませて下山開始。曇ってはいるが鳥のさえずりも聞こえ、幸いなことに雨の気配はない。山の端の上にかかる薄い雲の上にお日様が顔を出すと雪紋がきらきらと輝き美しい。

ゆるんだシャーベット状の雪はアイゼン無しで充分気持ちよく歩け、急斜面ほどぎくざくと速い。昨日出会ったパーティーのテン場跡は素敵なテーブルもしつらえてあり、風もない場所でさぞや快適だったにちがいない。次回はここだ!!

下りは自分たちのトレースをたどってもう一度改めてブナを味わいながら往路を戻るだけ。登りは重荷にあえいで、足元やブナの根元ばかり見ながら登ってきたが、下りはブナ林の尾根の全体をから木々の枝先まで視野に入ってきて別な景色を楽しめる。登りでは気付かなかったが、途中痛々しく木の肌に文字が刻まれているブナの木がいくつもあり、「残雪期しか来られないこのブナの宝庫の森に来て、いったい誰が!大バカ者!」とぶつくさ。ふとどき者はこんな所まで登ってくるのか。

最後の急斜面は大分雪解けが進んで歩きにくくなっている所もあり、雪をひろいながらあつという間に車の所に到着。早すぎて温泉が開いていないのを心配しながら山中2泊のブナの山旅を終える。加えていうなら、ブナはもちろんブナのような大らかなメンバーにも癒された山旅でもあった。

振り返れば、今年の雪の状態は多過ぎず少な過ぎず、ワカンもピッケルも不用で、雪が少なければ城郭朝日の直下はもっと藪が出てやっかいになることを考えると、残雪期しか入れないコースとしては幸運なベストコンディションだったのだろう。

時間調整をしたつもりで行った桧枝岐の駒の湯は4月28日まで12時から営業(それ以後は朝6時から)ということで残念!他に候補にあがっていた古町温泉の赤岩荘で汗を流し、曲家集落入口の「そば処曲家」でお腹を満たし、渋滞の無い平日の高速に乗って帰路につく。

雨の予報もうまくすり抜けて、天候も見方してくれた残雪のブナの山は素敵な春からの贈り物だった。



古町温泉赤岩荘



そば処曲家の天ざるセット